令　和　４　年　第　１　２　回
富　山　県　教　育　委　員　会　会　議　録

Ⅰ　開会及び閉会の日時

令和４年 11 月８日（火）

開会午後２時 15 分、閉会午後２時 55 分

Ⅱ　場所

県民会館８階バンケットホール

Ⅲ　出席委員

１番	黒田	卓	２番	町野	利道	３番	村上	美也子
４番	坪池	宏	５番	大西	ゆかり	教育長	荻布	佳子

Ⅳ　説明出席者

教育次長	広沢　久也	教育企画課長	坂林　根則
生涯学習・文化財室長	吉田　学	教職員課長	板倉　由美子
県立学校課長	番留　幸雄	小中学校課長	水戸　英之
保健体育課主幹	山谷　大有		

Ⅴ　傍聴人数　　１人

Ⅵ　会議の要旨

午後２時 15 分、教育長が開会を宣する。

１　会議録の承認について

（令和４年９月 29 日開催の令和４年第 10 回富山県教育委員会会議録）

（令和４年 10 月 18 日開催の令和４年第 11 回富山県教育委員会会議録）

会議録閲覧

荻布教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

２　議決事項

議案第 28 号　令和４年度末教員異動方針に関する件

教職員課長から説明し原案のとおり可決した。

３　報告事項

(1)　臨時代理について（富山県教育委員会文書管理規程一部改正の件）

(2)　臨時代理について（富山県教育委員会公印管理規程一部改正の件）

教育企画課長から説明した。

(3)　令和３年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要について

小中学校課長から説明した。

４　今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

５　議事

〇報告事項（3）関係

〔町野委員〕

・不登校で学校へ行かない子どもたちはどうしているのか。

〔小中学校課長〕

・時々学校には来るが教室には入らず保健室や相談室で過ごす子どもや、学校外の施設に通っている子ども、これ以外に、引きこもって全く家の外に出ない子どもなど様々なタイプの子どもがいるが、学校に来ている子どもについては教員がマンツーマンで付いて学習指導や相談支援をしている。家にいる子どもには、一部の学校ではオンラインで授業を配信し、本人がタブレットを使って授業を見るという取組みを行っている。ＩＣＴが導入される前からも定期的に担任や学年の担当者が家庭を訪問して、学校の様子を伝えたり必要な基本的な学習課題を与えたりすることで対応している。

〔町野委員〕

・落ちこぼれ教育を非常に重要視している。大学では、成績の悪い生徒を学校がサポートし徹底的にフォローして底を上げれば学校全体のレベルが上がっていくという話をよくしている。教育委員会はこの問題を統計的にサンプリングしたり経験値をとったりしているのだと思うが、各学校において一人ひとりの教員がやっているのかどうかについては教育委員会がチェックしなければならないと思う。

〔小中学校課長〕

・小中学校については毎年指導主事が学校訪問ですべての学校へ年に一度行っており、その場で生徒指導担当教員と生徒指導担当の指導主事とが面談をし、子どもたちへの支援の様子を確認しながら必要に応じて助言しているので、さらにしっかりと進めていきたい。

〔黒田委員〕

・この不登校の数字だが、ヤングケアラーの数字は入っていないのか。

〔小中学校課長〕

・基本的には 30 日以上の欠席という基準があり、その中でも病気や、本人の事情以外での家庭の要因については省いている。

〔黒田委員〕

・ヤングケアラーのように家庭の事情で学校へ来られない子どもの統計的な数字、傾向のようなものはあるのか。

〔小中学校課長〕

・すべての学校において個々の状況は把握している。

〔村上委員〕

・いじめについては、いじめをされる側になってもいじめをする側にもなってほしくないと思っており、いじめをしてしまった子どもへの対応ということもかなり重要だと思っている。からかいというレベルではなく、命にかかわる重大な事案も全国的に発生しており、そうなると教育関係の中だけではどうしようもなく、児童相談所や県警などと連携を取っていく必要があると思っている。県内でもそういう連携を取っている事案はあるのか。

〔小中学校課長〕

・すべての小中学校に配置しているスクールカウンセラーについては、いろんな細かないじめに関する事案をすべて共有を図るようにしているので、そういった専門家が適切に、児童相談所に相談するか、警察に連絡するかなどを検討しながら対応を進めており、実際に児童相談所や警察に相談するような事案も発生している。

〔村上委員〕

・先生方が一生懸命になりすぎて抱え込んでしまうといけないのではないかとも思っている。外部と繋がること自体は全然悪いことではないということでやってもらえばいい。小中学校では不登校予備軍がとても多い。勉強が遅れるとさらに学校へ来られないということになるので、学びを止めない体制が必要。学校に来られない子どもがいると対応に時間を取られたり、一生懸命になりすぎて先生が疲弊してしまう。不登校の子がいる際の学校内での先生方をサポートする体制はあるのか。

〔小中学校課長〕

・県教育委員会で設置しているいじめ対策推進会議があり、そこで専門家の方にも検討いただき、初期対応フローチャートを県教委から発行した。今年度、教員が参加する研修会でも活用するとともに、一部の学校では４月当初の校内研修会で管理職からそれについて周知を図り、事案が上がってきた段階でフローチャートに沿って複数の関係職員で情報共有しながら対応を進めている、その関係職員の中にはスクールカウンセラーや

スクールソーシャルワーカーも入って進めていると聞いているので、担任がひとりで抱え込むという事案をできる限りゼロになるように努めているところである。

〔大西委員〕

・暴力行為や不登校の富山県での発生件数の比率は全国の比率とあまり変わらないのに、いじめの認知件数の比率が富山県は全国と比べて少なくなっているのが気になる。今までもずっとそういう傾向にあるようだが、それが富山県の全般的な県民性なのか。学校では小さな気付きでも拾い上げ、早く対応するようにしていると聞いたが、そうなると家庭が気付いていないのか、スポーツ少年団やクラブチームの指導者が気付いていないのか、ＳＮＳなどで投稿があっても報告しようがないと思っているのか。他県ではそれらが拾われ認知されていることを考えると、保護者、塾の先生、スポーツ少年団やクラブチームの指導者への啓発をすればもっと早く気付いたり認知できたりすることに繋がっていくのではないか。件数が少ないことがいいこととも思えない。

〔小中学校課長〕

・我々としてもＰＴＡ連合会も含めて協力をお願いできればと思っており、今年度の総会の時にも必要なことはお伝えしたところである。各学校でももっと保護者がいろんなことを言いやすい環境を作る必要があると思っている。千人当たりの数字については、各都道府県がどのレベルのものを拾い集めた結果なのかは把握しかねる状況であり、ただ、その数字が全国並みになればいいのかということについても判断が難しい。以前に比べると細かなことまでしっかり吸い上げていただいているので、実際に他県と比べるとこういった事案が少ないと言えると考えたいのだが、それを証明できる状況ではなく非常に微妙なところである。もっと細かいところにしっかり目が行き届くとともに、外部の団体などからの情報がちゃんと得られるような関係づくりを進めていく必要があると思っている。現在、コミュニティスクールの小中学校への導入がどんどん広がってきているので、地域全体の中での学校というものを作っていくことでより多くの情報が得られ、早期対応に繋がっていけばと思う。

〔教育長〕

・いじめは、潜在化してしまう、潜ってしまう、表に出てこないということが一番よくないと思うので、細かなことでもキャッチして報告してほしいということは繰り返し言っていきたい。いじめ、不登校などの対応については、組織的に対応、教員が抱えてしまうのではなくスクールカウンセラーやソーシャルワーカー、管理職の先生方や児童相談所とか市町村などの関係機関との連携を含め、組織的な対応ということを繰り返し伝えていきたい。

〔坪池委員〕

・暴力行為とかいじめ、不登校の初期対応についてだが、総合教育センターではソーシャルスキルトレーニングのマニュアルを作って各学校と共有している。学校訪問等で紹介してもらえれば予防的な対策になる。かつてに比べると各学校でかなり普及していると思う。センターの研究主事が学校を訪問して見本を見せるということもやっていると思う。

〔教育長〕

・ありがとうございます。

〇その他

〔町野委員〕

・ＱＣサークルをご存知か。ＱＣサークルというのは、品質管理のサークルを作って企業の中で問題解決をしていくグループのことであり、問題解決をしながら成長していくという企業の教育プログラムの一環である。大学のインターンシップでは企業に入ってＱＣサークルをやる学生が非常に成功している。高校のインターンシップでは、ただ来るだけで何をしていったか分からず終わっている。期間が短いこと、また、そこへ行って何をするのかということが明確になっていない。行く方も受ける方も勉強不足ということ。ＱＣサークルではストーリーがしっかり設定されている。まずそこへ行って何をするのかを自分たちで決める。１４歳の挑戦も一人で行くケースが多くインターンシップも一人で行くことが多いと思う。一人で行って何をするのかわからない。企業も何をさせようかということになっている。昔は何の資格もなくラインに入ってハンダごてや

ペンチを持って物を作ればよかったが、今は絶対それはできない。訓練を受けて資格を取ってからでないと触れない。工場内ではそういう風になっているから行っても見ているだけである。けれど、今の大学生のインターンシップではチームで企業へ行ってそこで問題解決を図る。もちろん企業側も世話人が付くのだが、そういうことを高校のインターンシップでやると今やっているレベルが上がるのではないかと思う。

〔教育長〕

・ありがとうございます。研究して検討してみたいと思う。

午後２時 55 分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。